

**メキシコ -- オープンアクセス化の動き (特集 学術情報へのアクセス向上を目指して -- 機関リポジトリのいま -- 第II部 地域編)**

著者	村井 友子
権利	Copyrights 日本貿易振興機構 (ジェトロ) アジア経済研究所 / Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (IDE-JETRO) <a href="http://www.ide.go.jp">http://www.ide.go.jp</a>
雑誌名	アジ研ワールド・トレンド
巻	162
ページ	40-41
発行年	2009-03
出版者	日本貿易振興機構アジア経済研究所
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2344/00004806">http://hdl.handle.net/2344/00004806</a>

## 学術情報へのアクセス向上を目指して—機関リポジトリのいま

### メキシコ — オープンアクセス化の動き

村井友子

#### ●はじめに

世界にはスペイン語を母語とする人々が推定約三億五〇〇〇万人おり、ラテンアメリカ（以下ラ米とする）地域にはスペイン語を共通言語とする国が一九カ国存在する。スペイン語圏における学術情報のオープンアクセス化は、潜在的な利用人口と対象国の多さという利点に支えられ、今後飛躍的に進展する可能性を秘めている。これに加え、二〇〇〇年から二〇〇八年までのインターネット利用の増加率が世界平均二七・五・四％に対し、ラ米地域は六〇・三・四％で、情報通信の急速な整備と普及が学術情報のオープンアクセス化を後押ししていく要因となることはいうまでもない。本稿は、情報資源の共有化による相乗効果が期待されるラ米諸国の中で、ブラジルとともに学術情報のオープンアクセス化を牽引しているメキシコの状況を報告する。

#### ●学術雑誌のオープンアクセス化

メキシコの学術情報のオープンアクセス化は、オープンアクセスジャーナルの整備

を中心に進められてきた。世界各国のオープンアクセスジャーナルのダイレクトリであるDOAJには、メキシコのオープンアクセスジャーナルが七六誌登録されている（二〇〇九年一月三日アクセス）。オープンアクセスジャーナルの発行数が世界第二位であるブラジルの三六三誌には及ばないが、七六誌という登録数は先進国並みといえる。これはメキシコの大学・研究機関が、刊行誌のオープンアクセス化を積極的に推進してきたことの成果といえ、登録雑誌には、Economía mexicana (CIDE), Estudios demográficos y urbanos (El Colegio de México), Revista mexicana de ciencias políticas y sociales (UNAM) など、社会科学関連分野の主要学術誌も数多く含まれている。

#### ●学術雑誌情報ポータル構築

ところで、メキシコはオープンアクセスジャーナルが世に出る前の時代から、ラ米諸国の学術雑誌のポータルサイト構築を先導してきた。Latindex (<http://www.latindex.unam.mx/>) は学術雑誌のダイ

レクトリで、メキシコ国立自治大学 (UNAM) により一九九七年に構築されたものである。現在ラ米諸国に、ポルトガルとスペインが加わり、一万七四〇誌のダイレクトリ、三五二九誌の目録、二八九三誌へのリンクがインターネット上で提供されている（二〇〇九年一月三日アクセス）。

一方、近年のオープンアクセス化の流れの中で最も注目されるのが、メキシコ州立自治大学 (UAEM) がイベロアメリカ地域の学術情報の共有化を目的として構築した学術雑誌のポータルサイト Redalyc (<http://redalyc.uaemex.mx/>) である。これは、UAEMが国家科学技術審議会 (CONACYT) の資金協力を得て構築したもので、二〇〇二年一〇月にサービスを開始した。現在、スペイン、ポルトガルを含む二五カ国の大学・研究機関が参加するオープンアクセスジャーナルのポータルサイトに成長している。学術雑誌五五〇タイトル、一二万二四五論文が搭載され（二〇〇九年一月三日アクセス）、対象分野は、人文社会科学分野から科学技術分野まで幅広い。論文検索からダウンロードま

表1 メキシコの機関リポジトリ

	提供機関	名 称	内 容
1	メキシコ国立自治大学 (UNAM)	DSpace en Publicaciones Digitales, DGSCA, UNAM	コンピューターサイエンスに関するUNAMの研究成果や教材
2	(UNAM)	SciELO - México	SciELO (荻野記事を参照)のメキシコ版
3	(UNAM)	Biblioteca de IBUNAM	生物学研究所の電子出版物
4	(UNAM)	Acervo Digital del Instituto de Biología de la UNAM	生物学研究所の過去の研究成果のデジタルアーカイブ
5	(UNAM)	Árboles de la UNAM: Instituto de Biología, Universidad Nacional Autónoma de México	生物学研究所が提供するメキシコの樹木に関する情報サイト
6	イテソ大学 (ITESO)	Documentación en ciencias de la comunicación CC-DOC ITESO-CONACYT	コミュニケーション科学に関するメキシコ国内の大学の研究成果を集めたサブジェクトリポジトリ
7	(ITESO)	Instituto Tecnológico y de Estudios Superiores de Occidente: Acervo General de la biblioteca	ITESO大学図書館のデジタルアーカイブ
8	メキシコ州立自治大学 (UAEM)	Redalyc	本文参照
9	ラスアメリカス Puebla 大学 (UDLAP)	Interactive and Cooperative Technologies Lab	UDLAPの情報通信、WEB関連技術に関する研究成果
10	(UDLAP)	Colección de Tesis Digitales - Universidad de las Américas Puebla (Colección de Tesis)	UDLAPの学位論文のデジタルアーカイブ
11	チアパス州政府	Gobierno del Estado Chiapas	チアパス州に関する情報、記事

で簡単に操作でき、解り易い設計になっている。ちなみに先述の Latindex と Redalyc の違いは、前者がメタデータの作成と学術雑誌の包括的なダイレクトリ構築に力点が置かれ、フリーアクセスできる論文数が限られるのに対し、後者はポータルサイトのホストとして登録雑誌の論文へのフリーアクセスとコピーを保障している点にある。

### ● 機関リポジトリの構築状況

次にメキシコ国内の機関リポジトリの構築状況をみていきたい。表1は、ROAR と OpenDOAR に登録されているメキシコの機関リポジトリの一覧表である。全部で一一のリポジトリが登録されているが、この数はメキシコの大学・研究機関数を考えると十分とはいえない。また一見して大学の研究所や学部が独自に立ち上げたものが多く、各大学が組織的に機関リポジトリ構築に取り組み段階に至っていないことがうかがえる。メキシコにおける機関リポジトリ構築は萌芽期にあり、今後の発展のためには、より組織的な取り組みと国レベルでの指針作りが必要ではないかと考える。

### ● オープンアクセス化と UNAM

今後、メキシコが学術情報の共有化を進展させていく上で重要な役割を担うと考えられるのが先述の UNAM である。UNAM は、二〇〇六年大学図書館世界大会 "Open Access : An Alternative Access

to Scientific Information" を主催した実績を持ち、これまで電子図書館のネットワーク化や WEB を通じた情報発信を積極的に推進してきた。その背景には年間八四六九 (二〇〇七年) のプロジェクトを持つ同大学がメキシコ全体の研究成果の約半数を占めていること、図書館情報学の大学院で、電子図書館やリポジトリなどの研究・教育を主導してきたことなどがある。

最近の UNAM の興味深い取り組みに学内のリポジトリのネットワークである 3R プロジェクト (Red de Repositorios Universitarios de Recursos Universitarios) と、オープンアクセスリソースのメタデータハーベスティングを行うサーチエンジン OA-Hermes の開発がある。3R は学生数約三〇万、図書館数一四一を抱える同大学のリポジトリのネットワークを構築することで情報の共有化を図り、これまで認知が難しかった他分野の研究成果へのアクセスを容易にし、学際的研究の振興に資することを狙いのひとつとしている。同時に Dublin Core に依拠したメタデータ作成と OAI-PMH によるメタデータ提供機能を持たせ、メキシコにおける機関リポジトリ構築の模範となることも目指されている。一方、OA-Hermes は UNAM 図書館とバイオテクノロジー研究所、細胞生理学研究所が共同開発したサーチエンジンで、こちららも学内のみならず、国内の大学に普及させることを目的としている。

### ● おわりに

概してラ米の研究者は研究情報のオープンアクセス化と自身の研究成果の公表に積極的である。今後コンテンツの作者である研究者と大学・研究機関との連携がより組織的に進められることで、ラ米地域の学術情報の共有化と研究活動の活性化が促進されることを期待したい。

(ちうごん) ちうごん / アジア経済研究所  
図書館)

#### 《参考文献》

- ① Alperin, Juan Pablo, Gustavo E. Fischman and John Wilinsky, "Open Access and Scholarly Publishing in Latin America: Ten Flavours and a Few Reflections," *Latin em Revista*, v. 4, n.2, Sept 2008, pp.172-185.
- ② Galina, Isabel and Joaquin Giménez, "An Overview of the Development of Repositories and Open Access in Mexico," *Proceedings ELIPUB 2008 Conference on Electronic Publishing*, Tronto, Canada, June 2008.
- ③ López Gasmán, Clara, Francisco J. García Peñalvo : Los repositorios digitales en el ambito universitario  
(<http://imn.ccaedet.unam.mx/virtualeseduca2007/pdf/62-CLG.pdf>)
- ④ UNAM : Agenda Estadística 2008  
(<http://www.planacion.unam.mx/agenda/2008/disco/>)